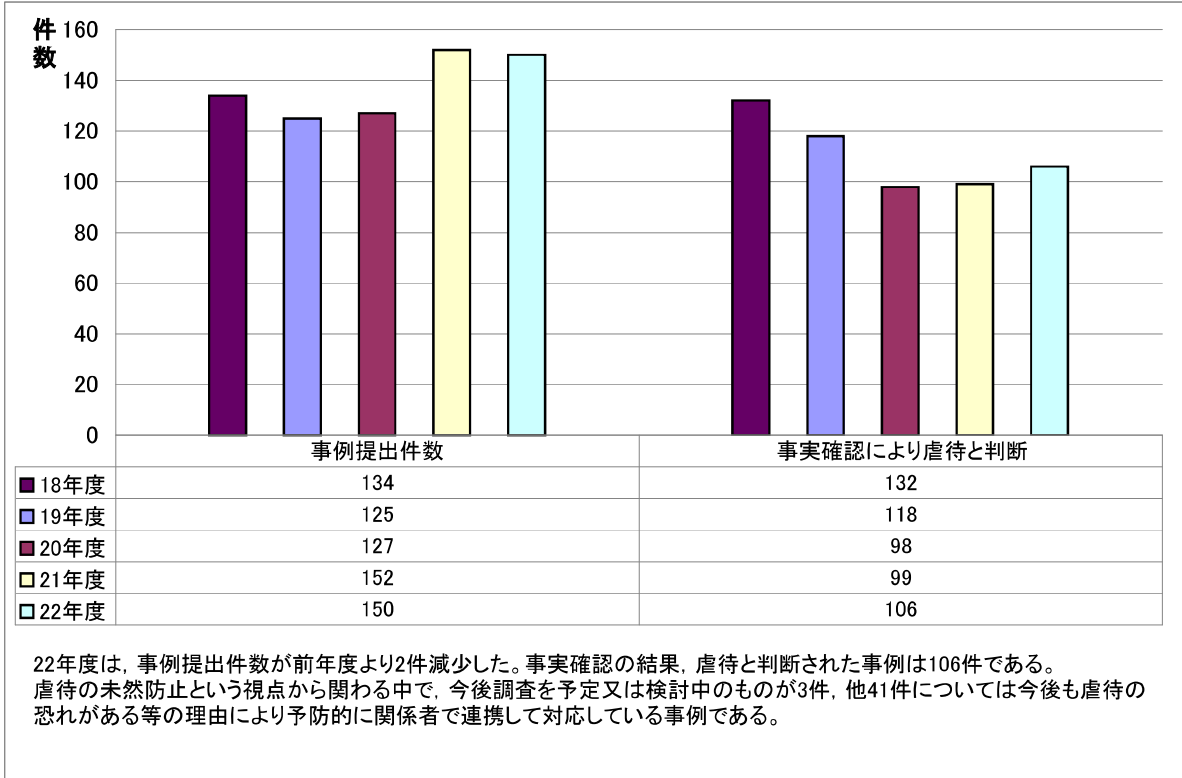


# 資料 1

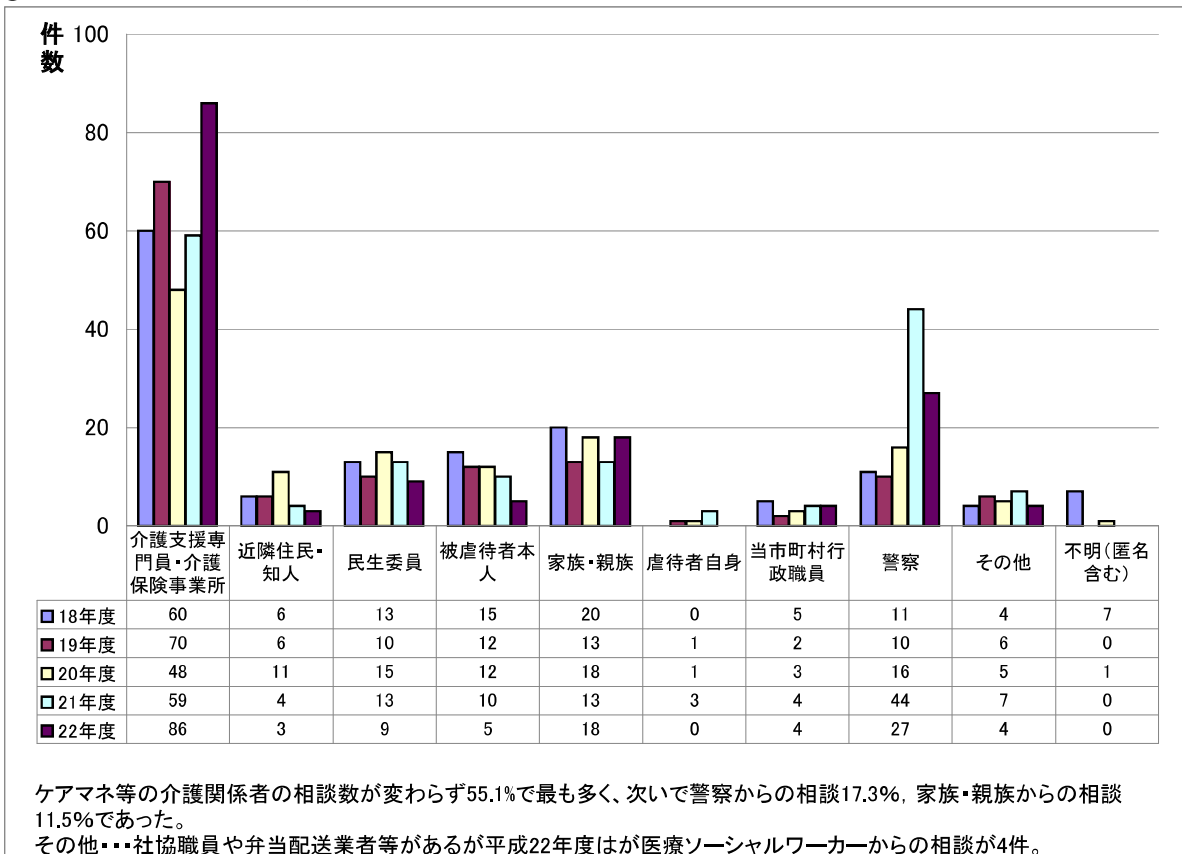
## H18・19・20・21・22年度の 65歳以上の在宅の高齢者虐待に関する新潟市の状況(H23.3.31現在)

### ①事例提出件数、②事実確認の結果



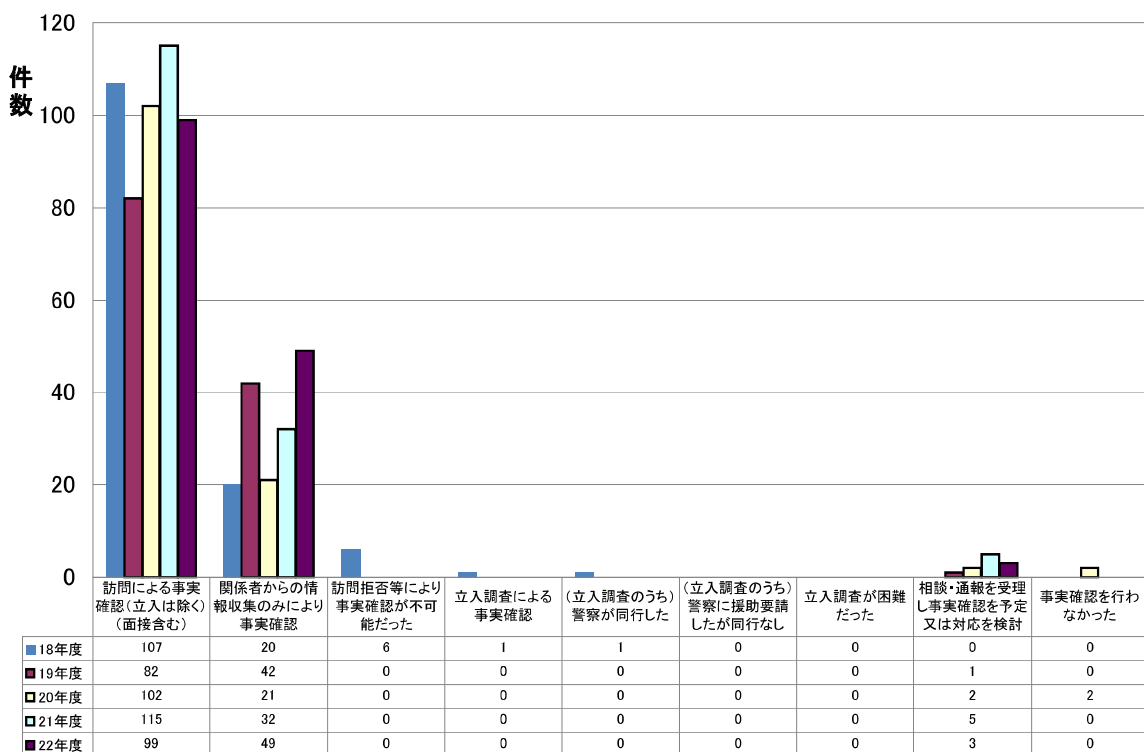
### ③虐待の相談・通報者(複数回答)

22年度 n=156



④ 事実確認の状況

22年度n=151

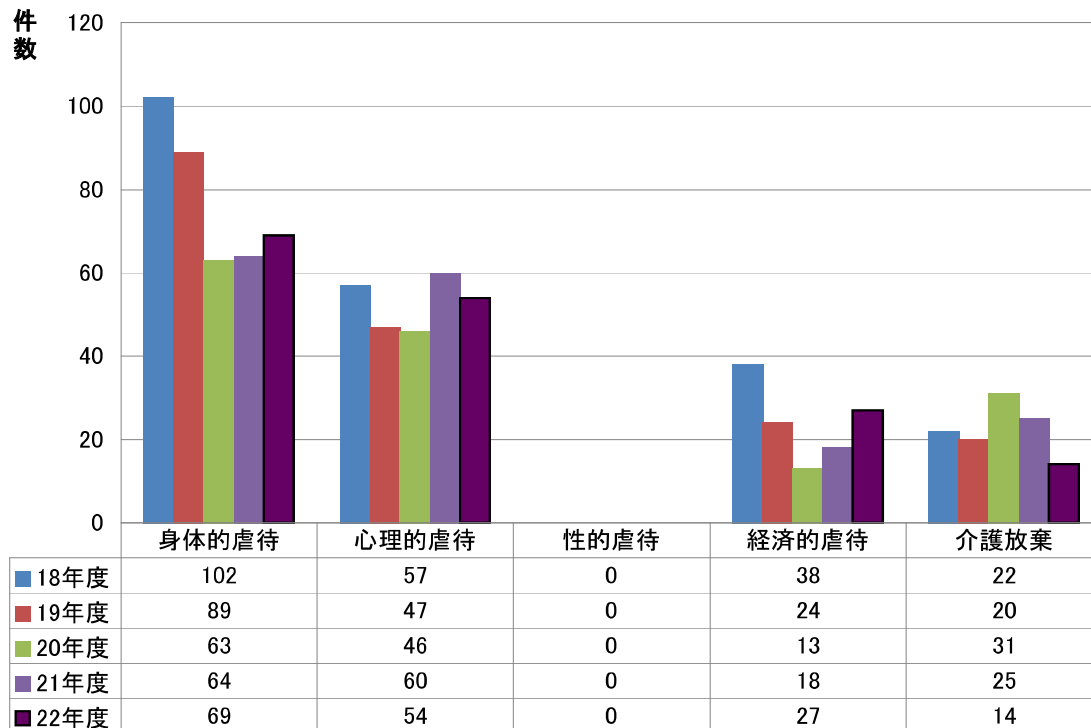


訪問による事実確認が全体の65%。

※事実確認を行った事例のうち、次年度に入って事実確認を行ったものも含むため、合計件数は、新規受付件数と一致しない。

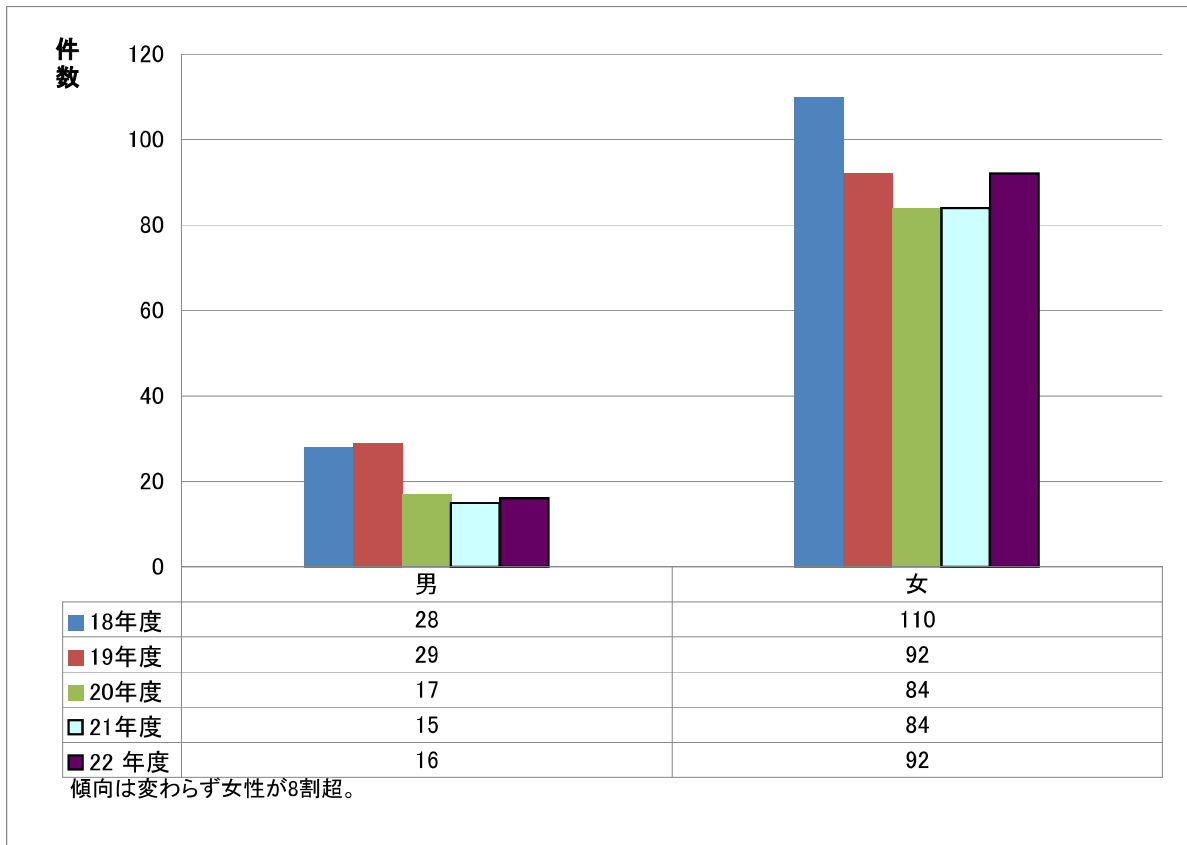
⑤ 虐待種類の内訳(複数回答)

22年度n=164

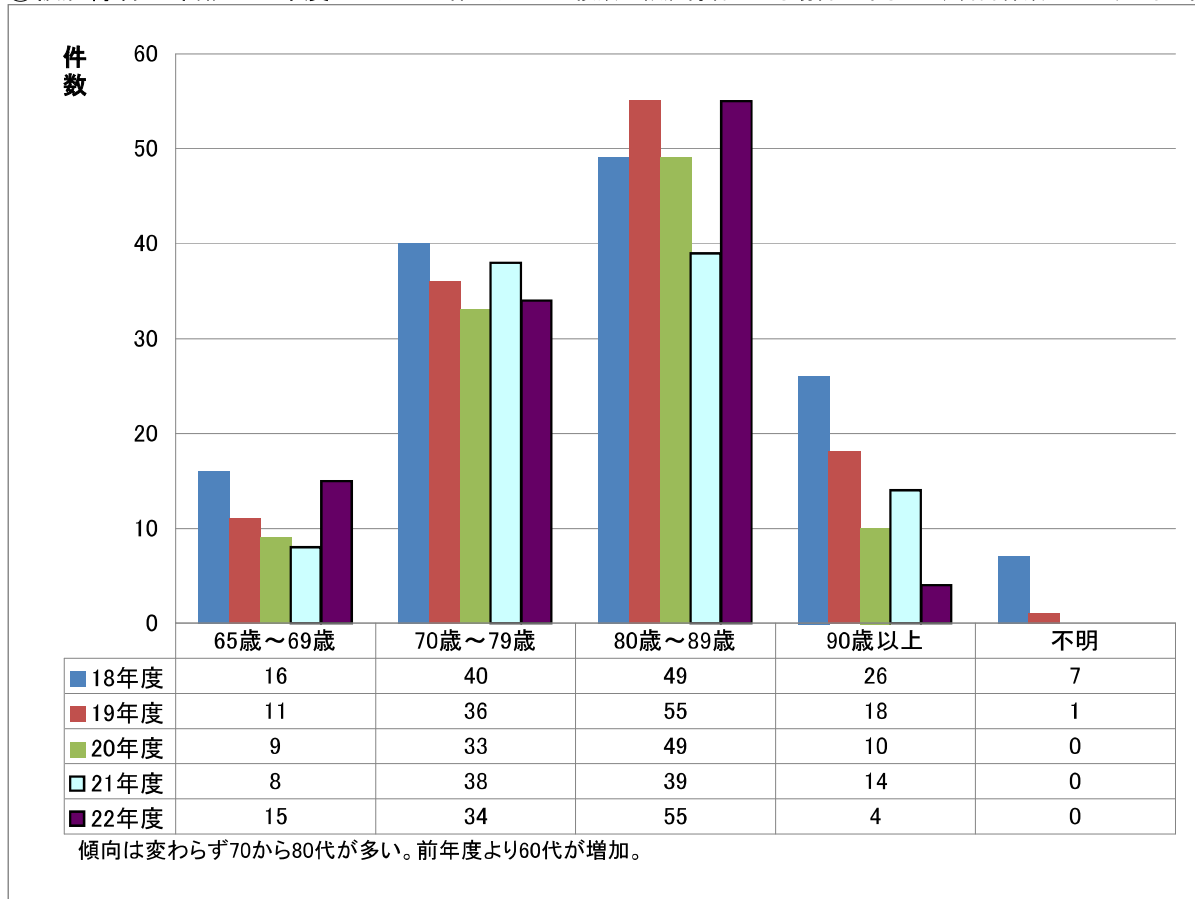


身体的虐待、心理的虐待で全体の75%を占める。経済的虐待が増加傾向にある。

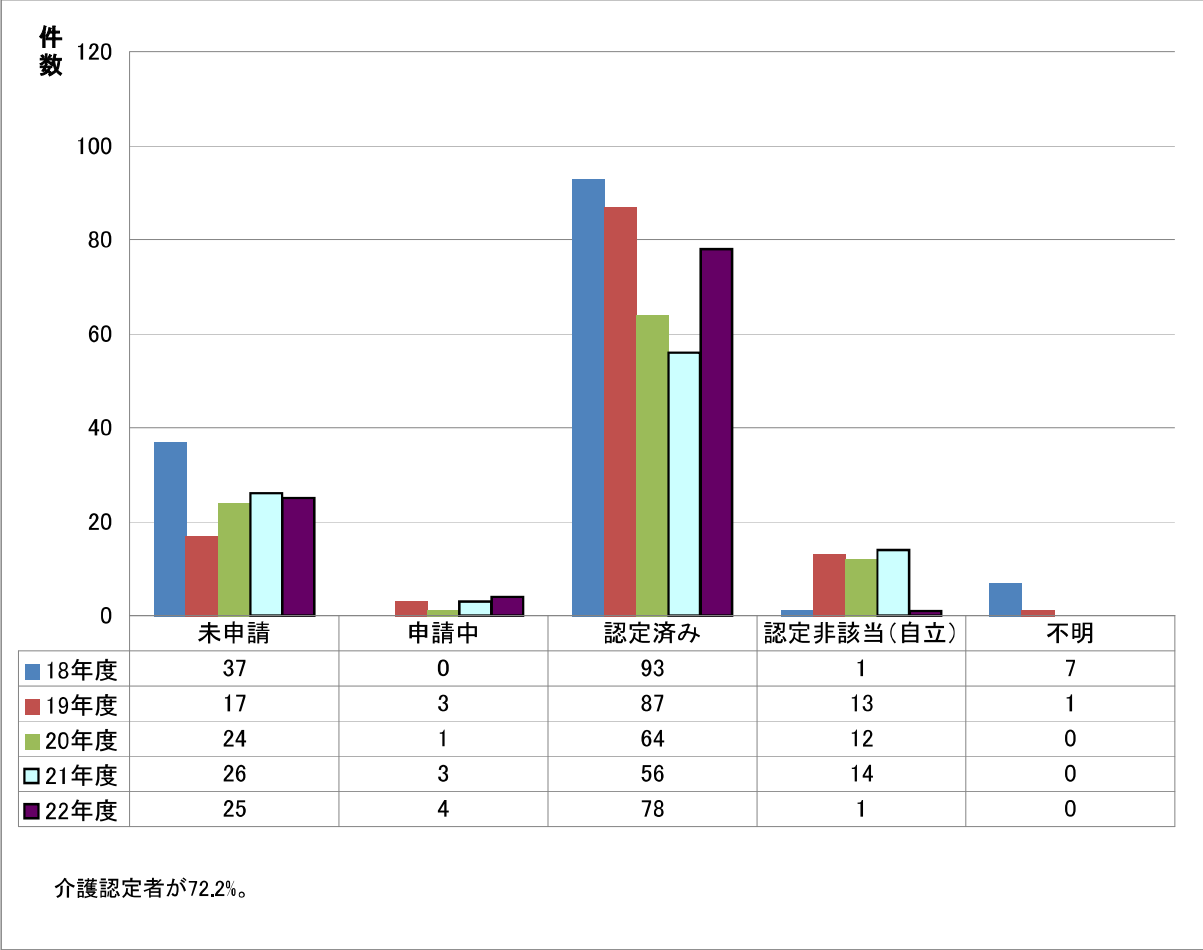
⑥被虐待者の性別 22年度n=108※1件のケースで複数の被虐待者がいる場合があるため、合計件数とは一致しない。



⑦被虐待者の年齢 22年度n=108※1件のケースで複数の被虐待者がいる場合があるため、合計件数とは一致しない。

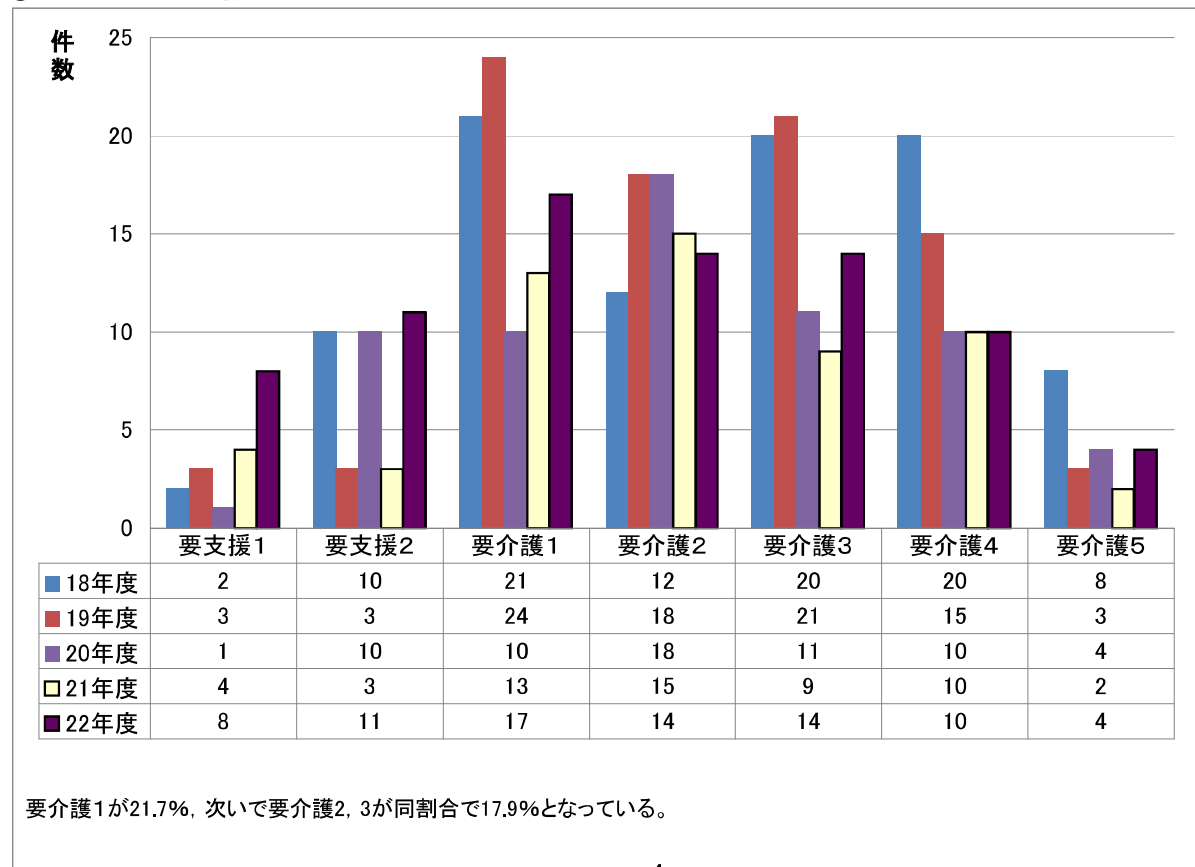


⑧被虐待者の介護認定の有無 22年度n=108※1件のケースで複数の被虐待者がいる場合があるため、合計件数とは一致しない。



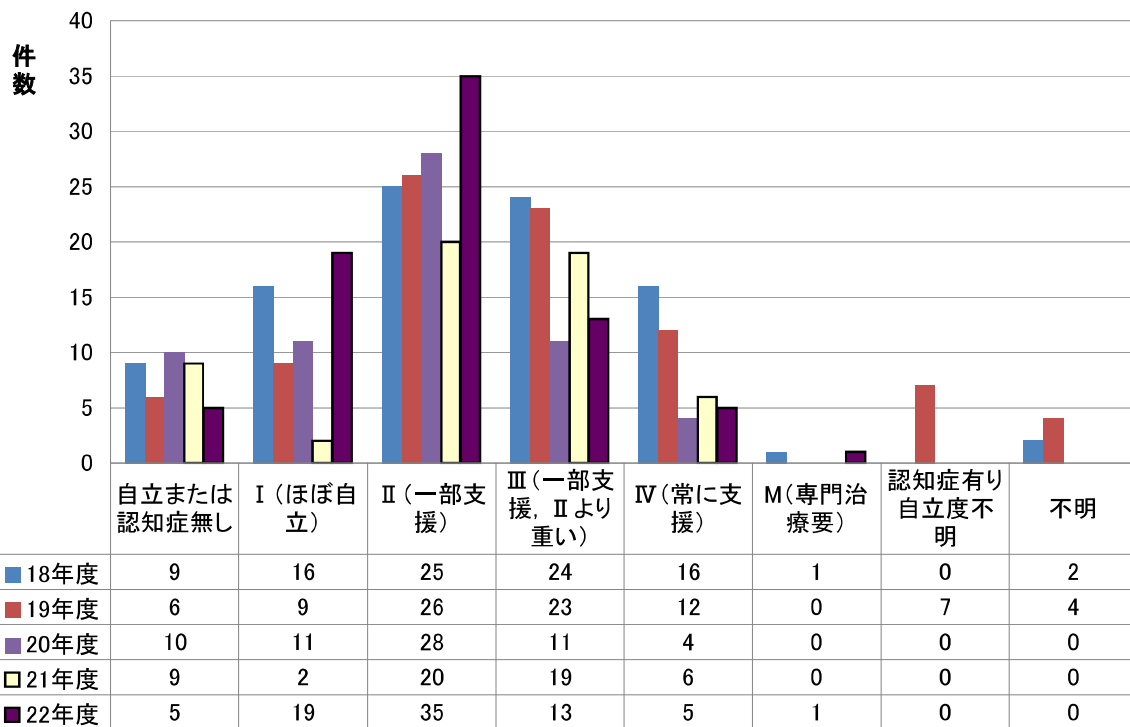
⑨被虐待者の要介護度

22年度n=78



⑩被虐待者の認知症の有無

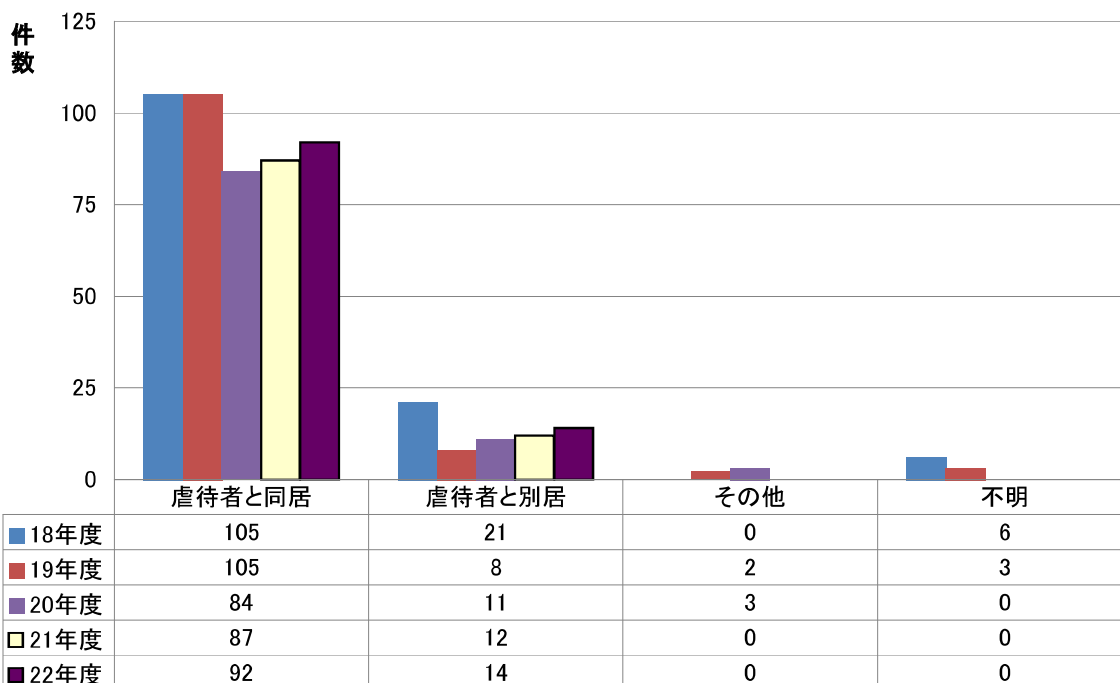
22年度n=78



日常生活に支障をきたすような症状や行動がみられ始める認知症日常生活自立度Ⅱの方が44.8%を占める。次いで、平成22年度は、日常生活は家庭内及び社会的にほぼ自立している認知症日常生活自立度Ⅰの方が24.3%を占めている。

⑪虐待者との居住形態

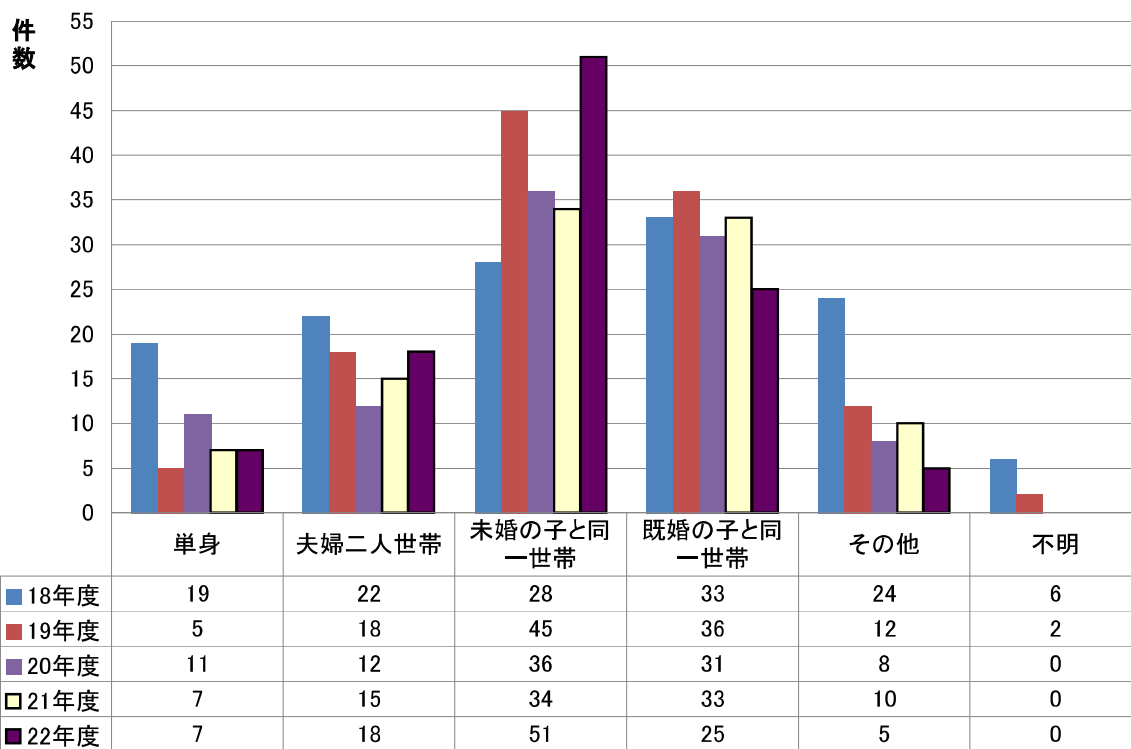
22年度n=106



虐待者と同居(他家族も含む)しているのが85.1%を占める。  
※その他—虐待者が数日泊まりに来る等

⑫世帯構成

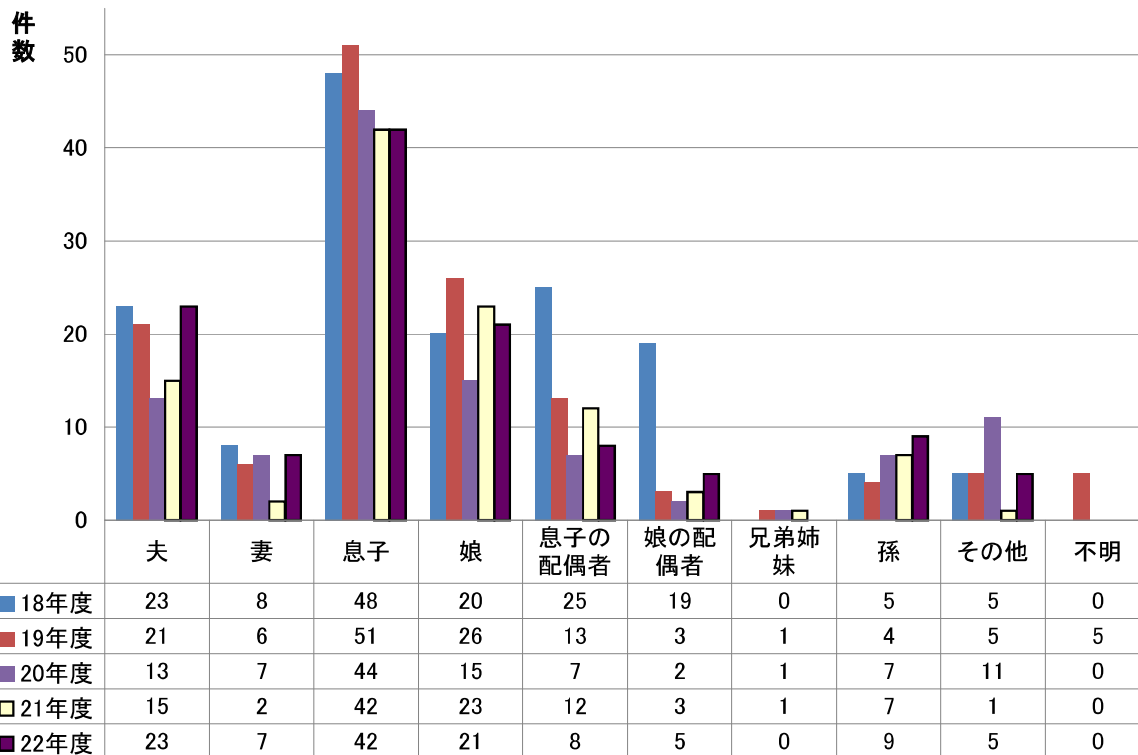
22年度n=106



その他—未婚の甥・叔母・孫・妹と同一世帯等  
未婚の子と同一世帯が48.1%を占める。

⑬虐待者との続柄(複数回答)

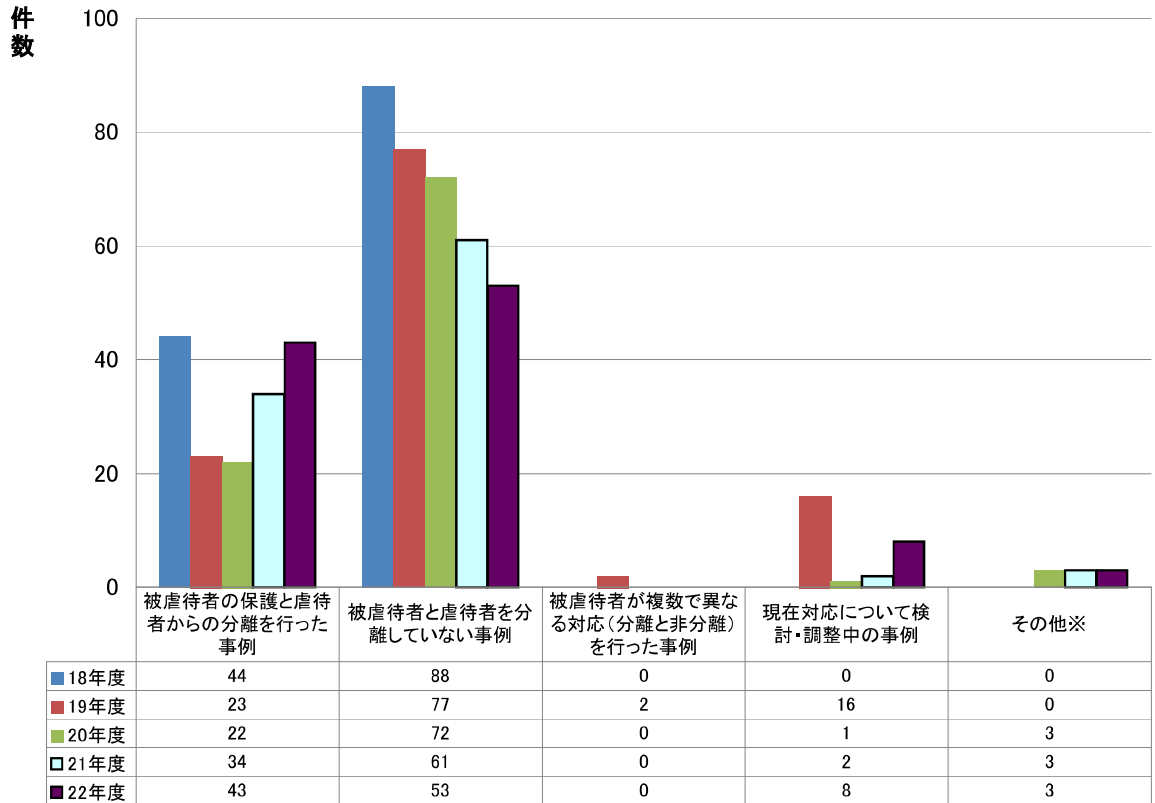
22年度n=120



その他—いとこの子・甥・友人・叔母  
「息子」が35%、22年度は次いで「夫」19.1%、「娘」17.5%であった。

⑭分離の有無

22年度n=107

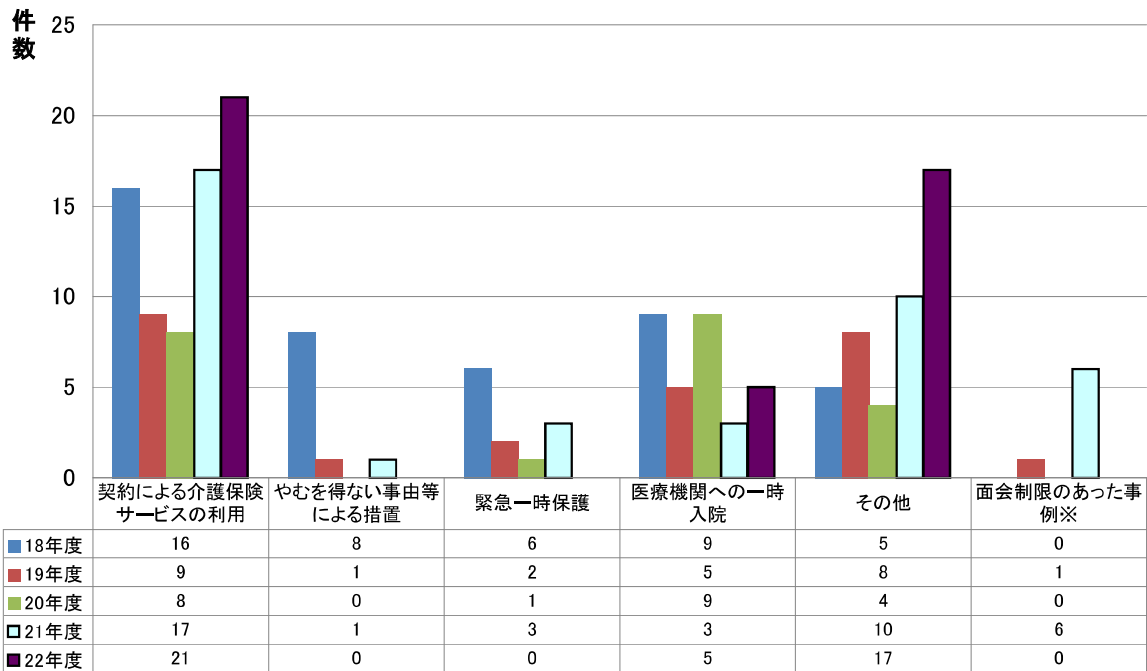


その他一人が入院・もともと別居している等  
40.1%の事例で分離が行われている。

※虐待判断事例のうち、次年度に入って対応をとったものも含むため合計件数は、虐待判断事例と一致しない。

⑮分離を行った事例の対応の内訳(最初にとった対応)

22年度n=43



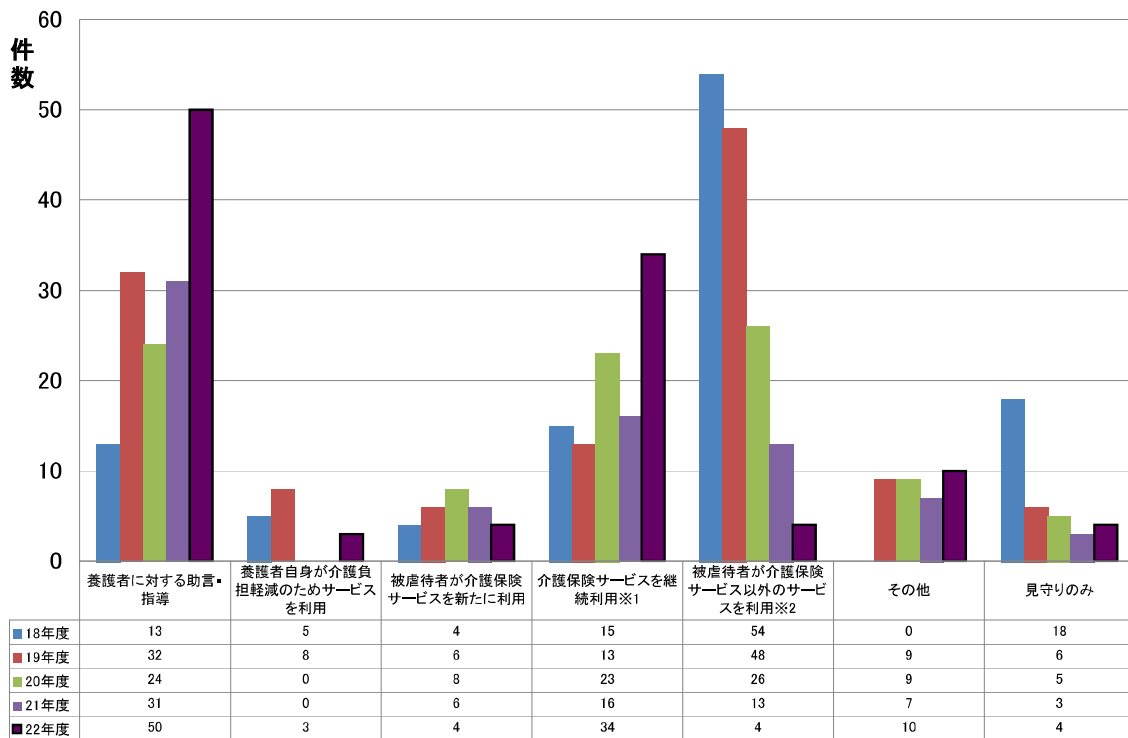
分離を行った事例のうち、契約による介護保険サービスの利用(ショート等)が48.8%を占める。

その他アパート、ケアハウス、別居の家族宅等へと住居をかえたケース等、22年度17件あった。

※面会制限のあった事例は平成20年度以前は、やむを得ない事由による措置での面会制限のあった事例の件数。平成21年度以降はやむを得ない事由による措置以外の対応で虐待者に居住地を教えない等の事例の件数も含む。

⑩分離していない事例の対応の内訳(見守りのみ以外複数回答有)

22年度n=109



※1被虐待者に対するケアプラン見直し

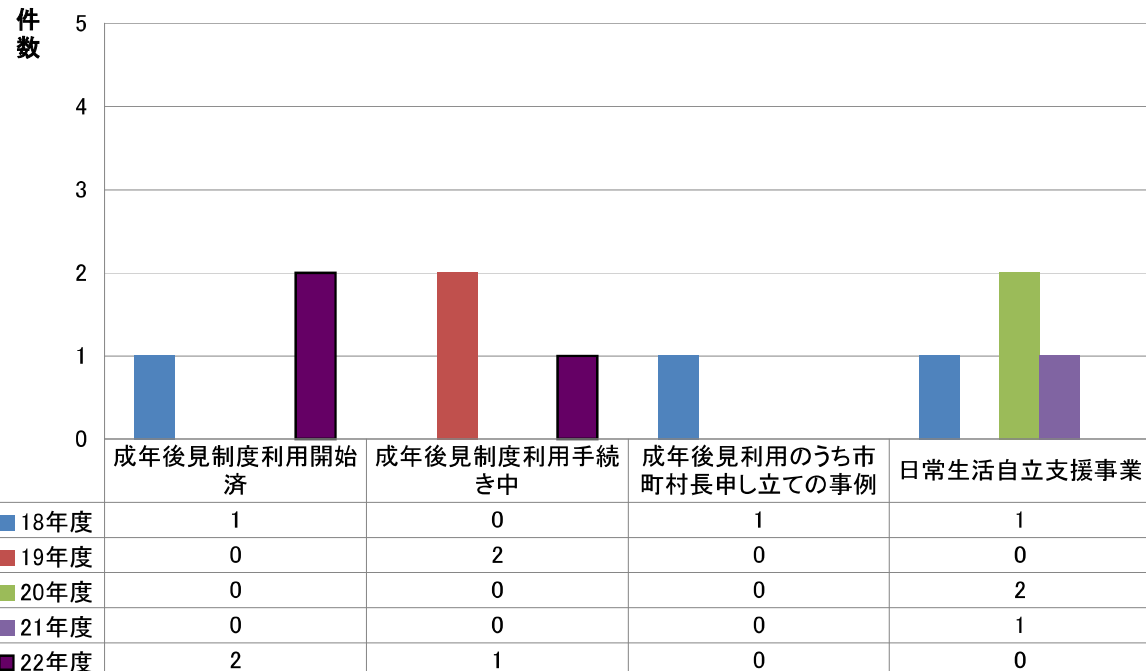
※2介護保険以外のサービス—包括等の見守り、定期訪問等

その他—被虐待者や家族に各種制度の紹介や目的にあった相談窓口の紹介、本人入院等

22年度養護者に対する助言・指導は全体の45.8%、介護保険サービス利用(継続含む)は全体の34.8%。

⑪権利擁護に関する対応

平成22年度n=3

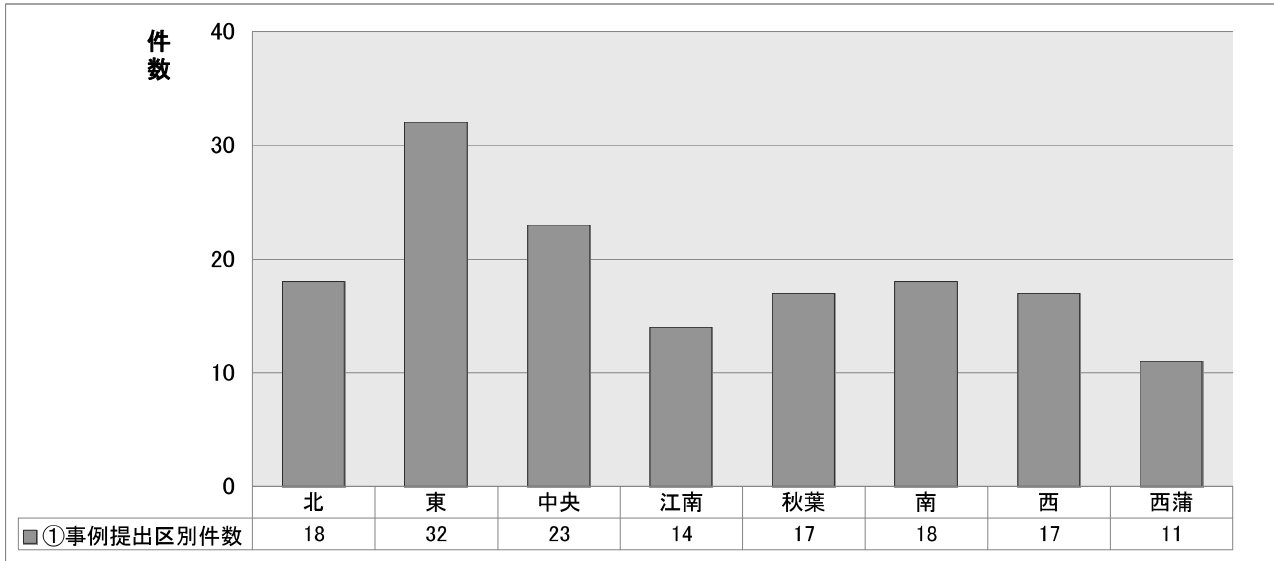


※虐待対応ケースでは22年度成年後見制度利用2件、手続き中1件。



平成22年度虐待相談受付件数について  
 在宅の高齢者虐待に関する新潟市の状況(H23.3.31現在。対象はH22.4月～H23.3月受付分)

①事例提出件数 n=150

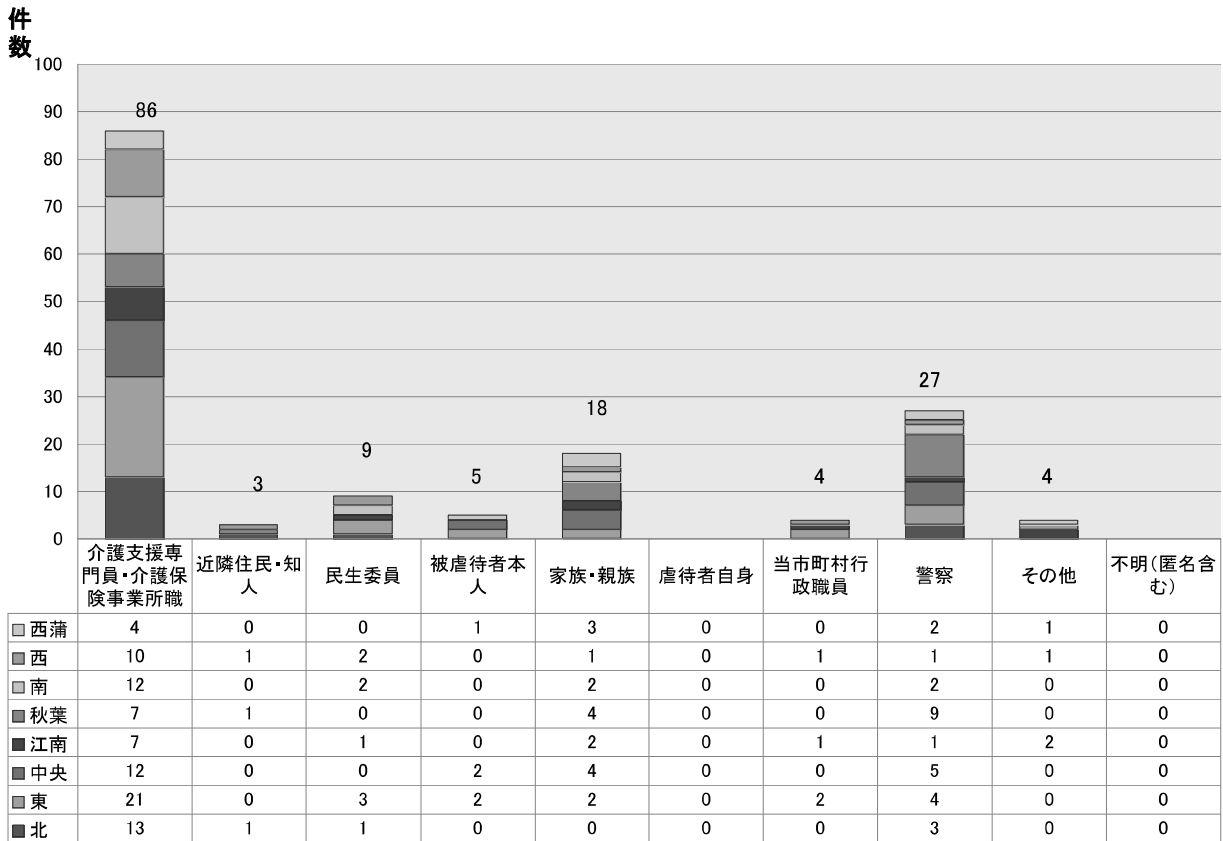


②事実確認の結果

事実確認	件数
虐待を受けた又は受けたと思われると判断した事例	106
調査を予定又は検討中の事例	3
虐待を受けたとは思われなかったが、虐待の恐れがある等の理由により、予防的に何らかの具体的な対応を行った事例	42
計	151

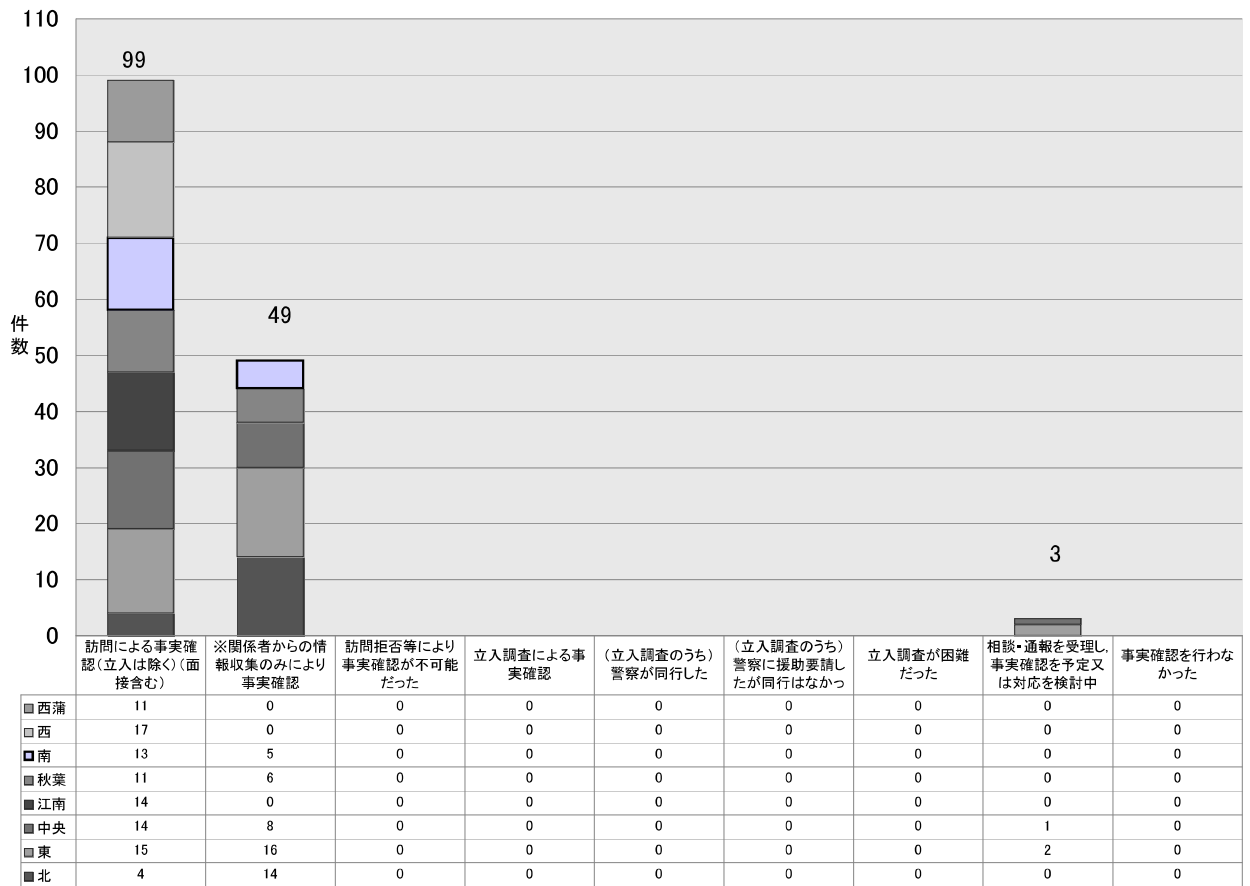
※事実確認を行った事例のうち、次年度に入って事実確認を行ったものも含むため、合計件数は、新規受付件数と一致しない。

③虐待の相談・通報者(複数回答) n=156



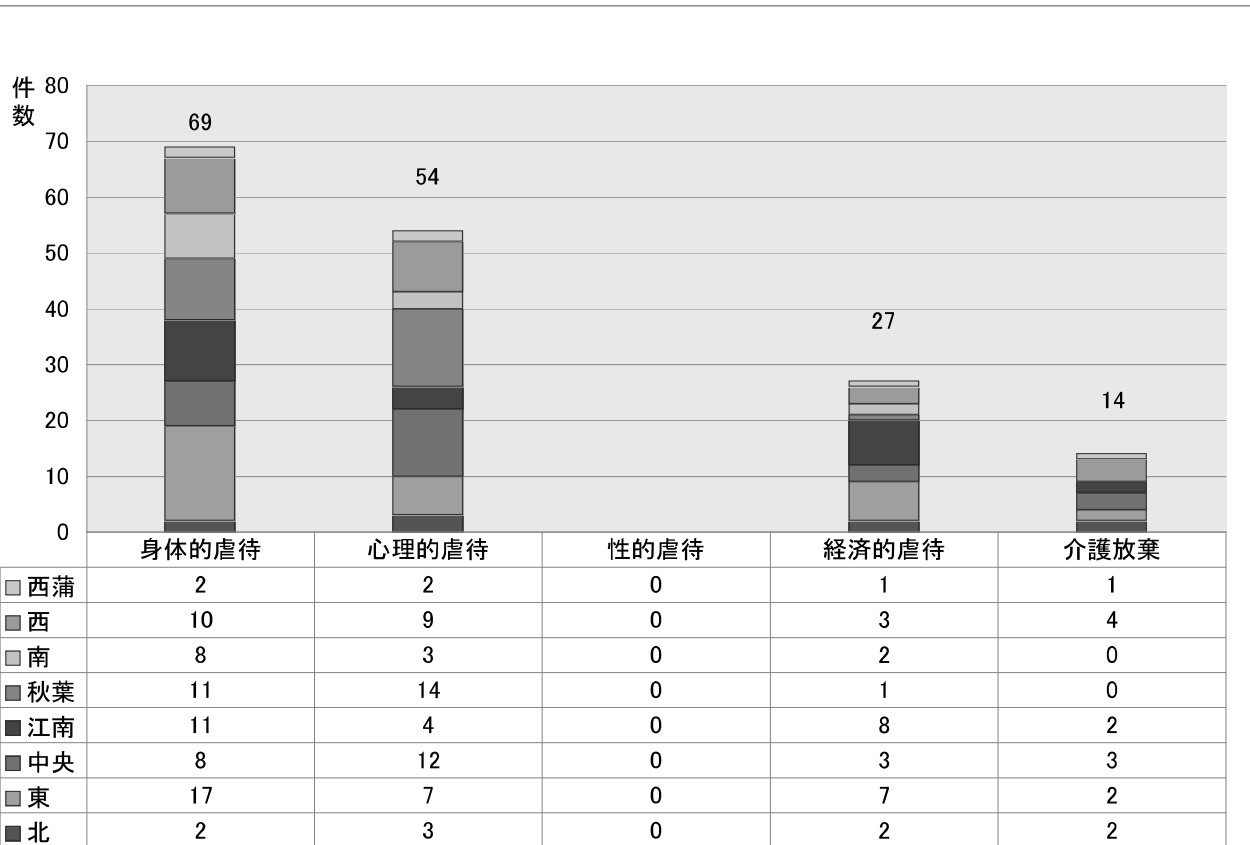
- ・その他…医療ソーシャルワーカー4件
- ・介護支援専門員、介護保険事業所職員が55.1%と最も多いが警察からの通報も17.3%と多くなっている。

④事実確認の状況 n=151



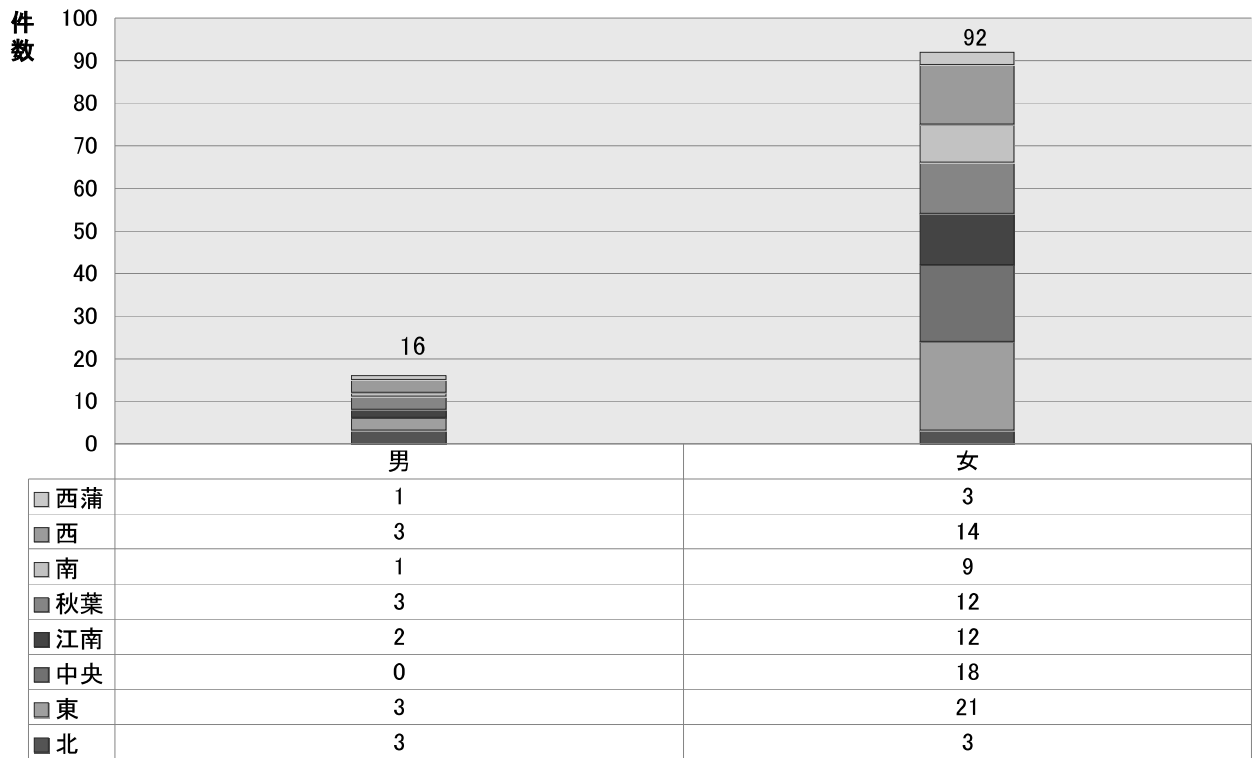
※関係者とは訪問、面会等実際本人に会っている者

⑤虐待種類の内訳(複数回答) n=164



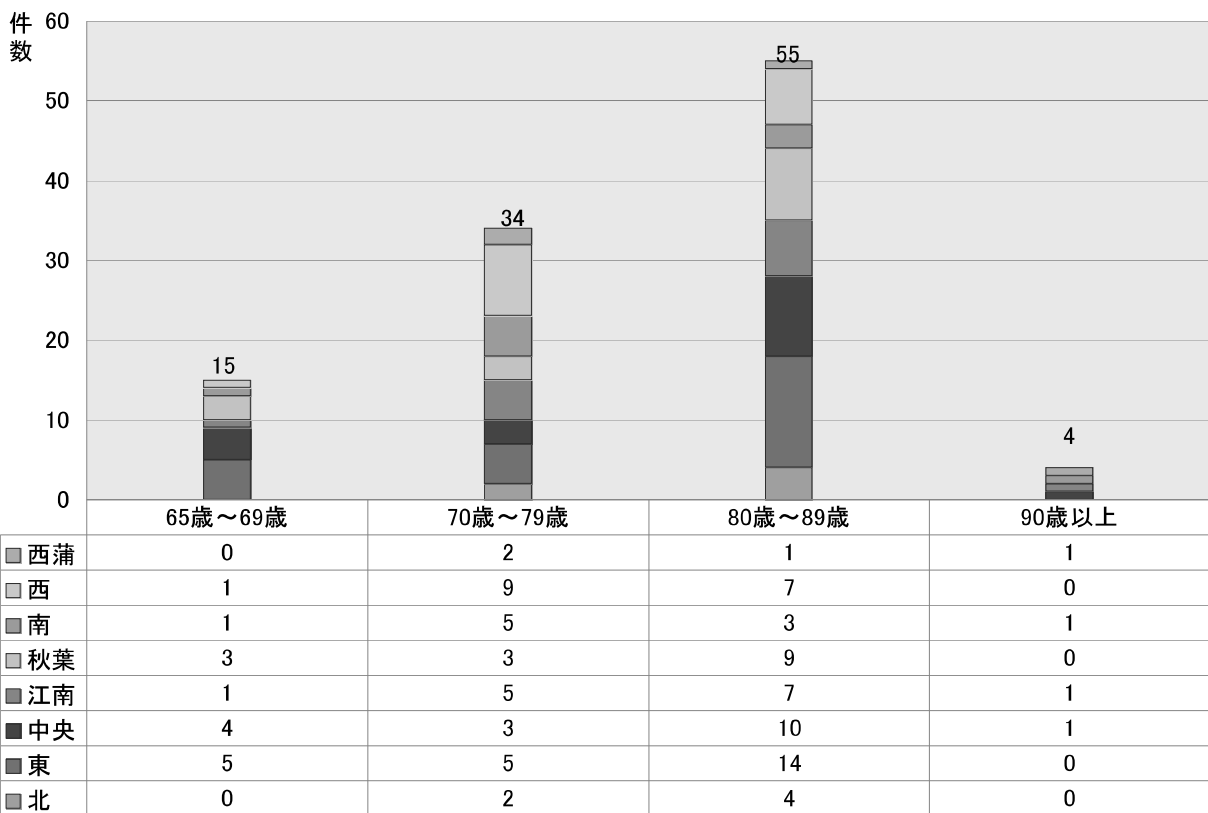
※「身体的虐待」が42%と最も多く、次いで「心理的虐待」が32.9%

⑥被虐待者の性別 n=108 ※1件のケースで複数の被虐待者がいる場合があるため、虐待と判断した合計件数とは一致しない。



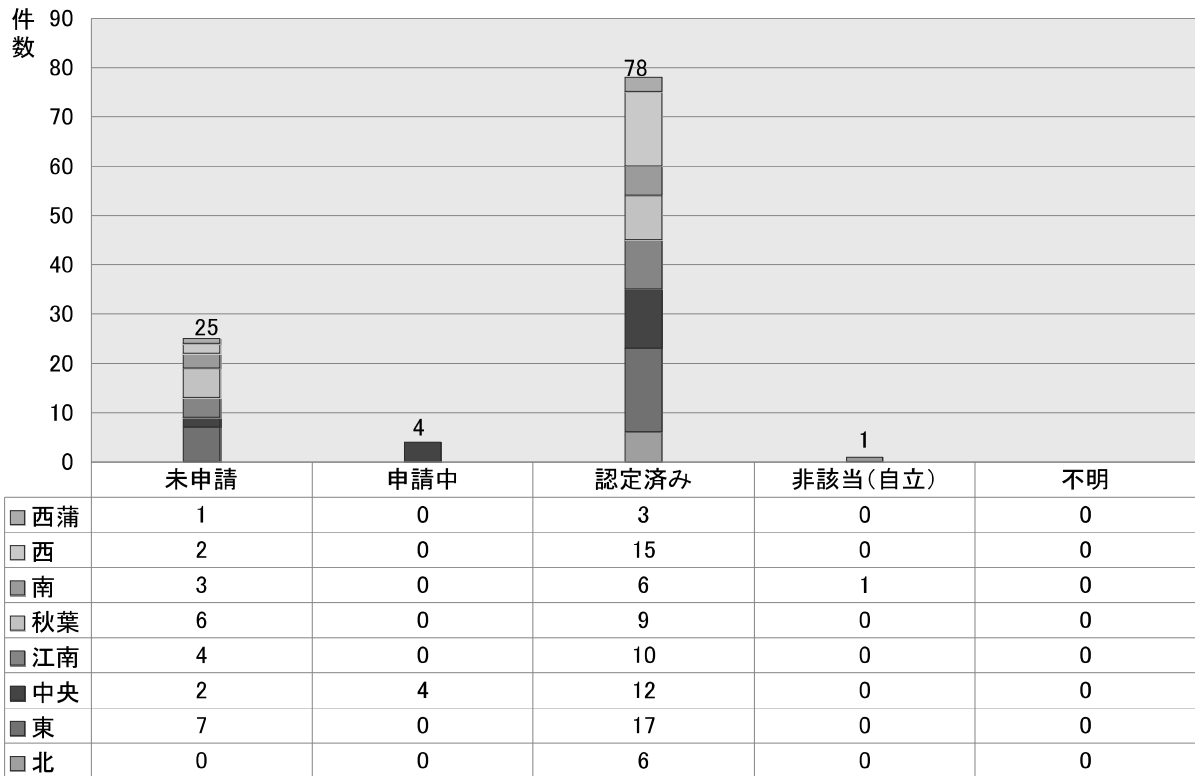
※約85%が女性である。

⑦被虐待者の年齢 n=108 ※1件のケースで複数の被虐待者がいる場合があるため、虐待と判断した合計件数とは一致しない。



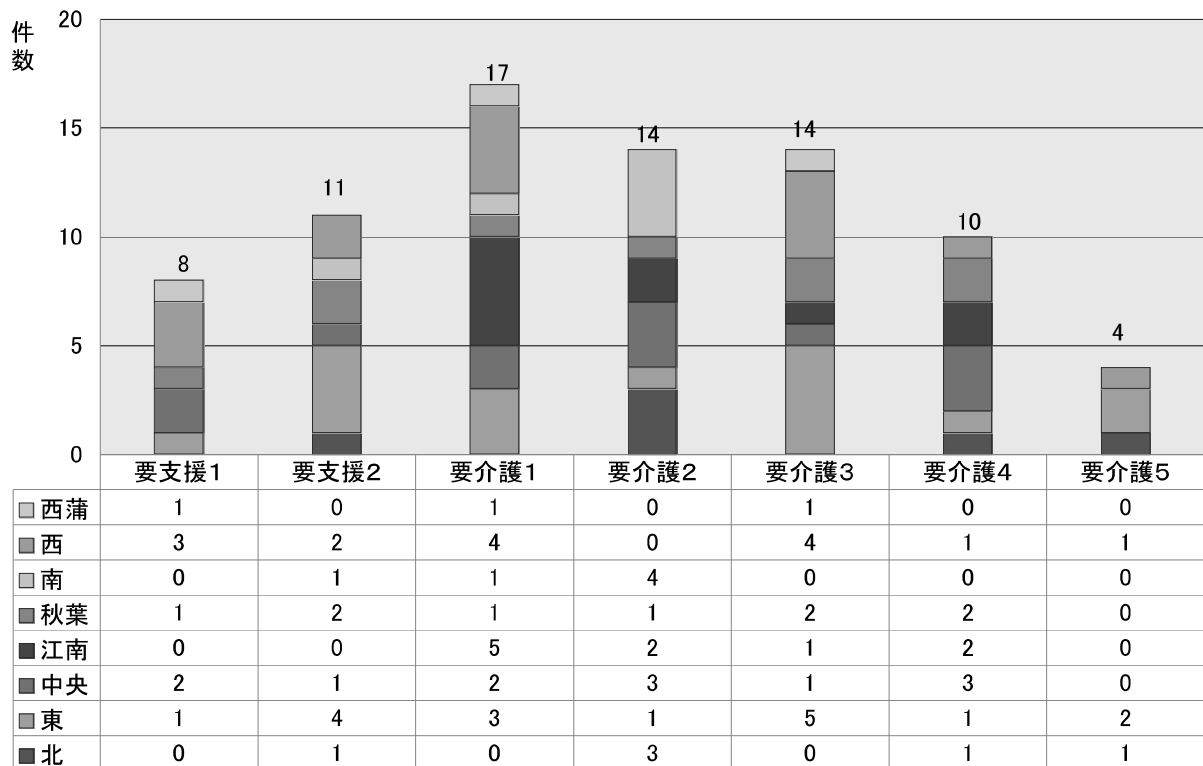
・80代が全体の50.9%に当たる。

⑧被虐待者の介護認定の有無 n=108※1件のケースで複数の被虐待者がいる場合があるため、虐待と判断した合計件数とは一致しない。



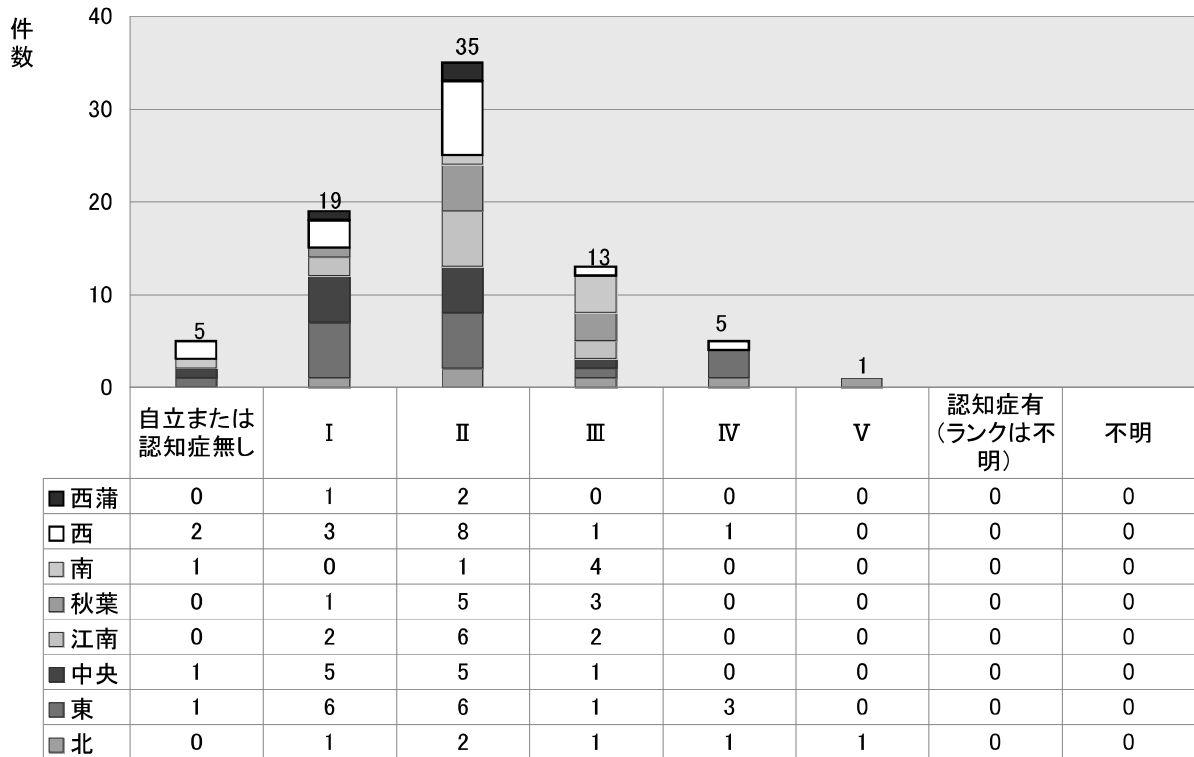
介護認定者が全体の7割。

⑨被虐待者の要介護度 n=78



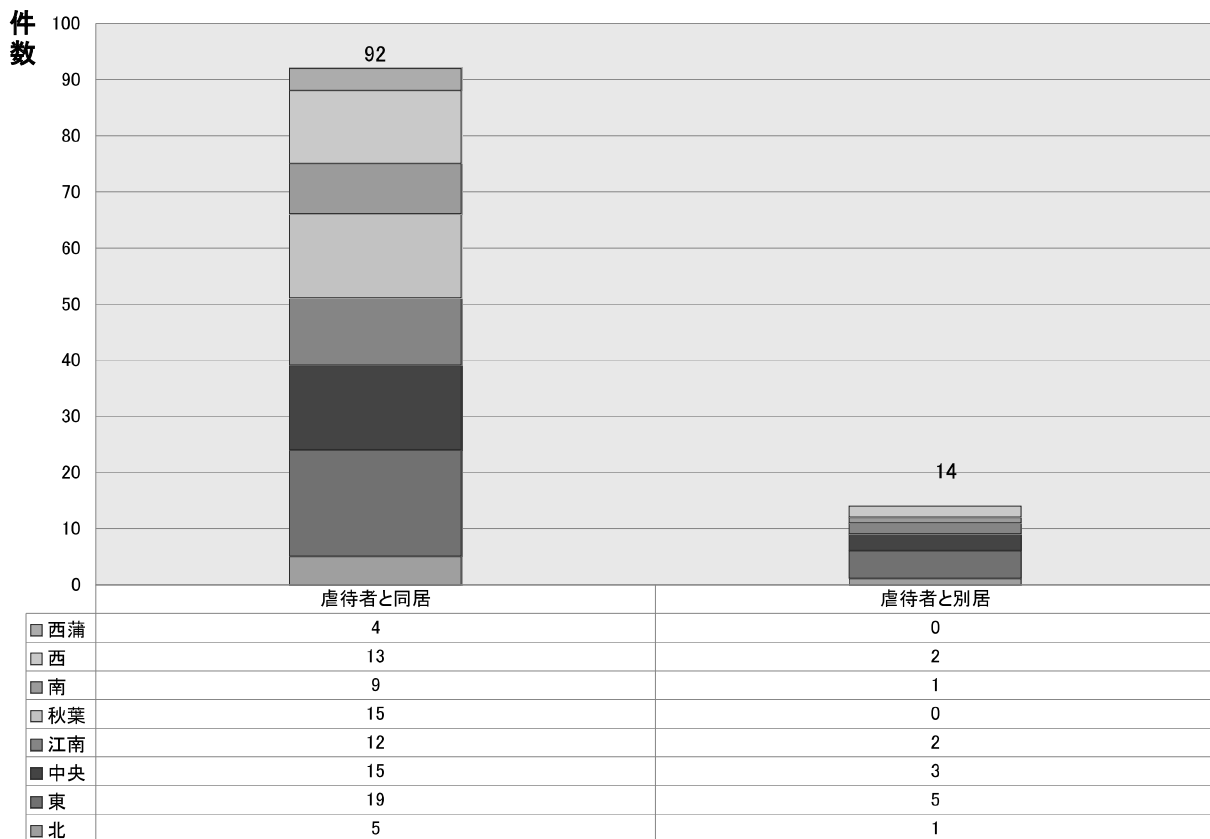
要介護1が21.7%と最も多く、次いで要介護2、要介護3が同割合で17.9%である。

⑩被虐待者の認知症の有無 n=78



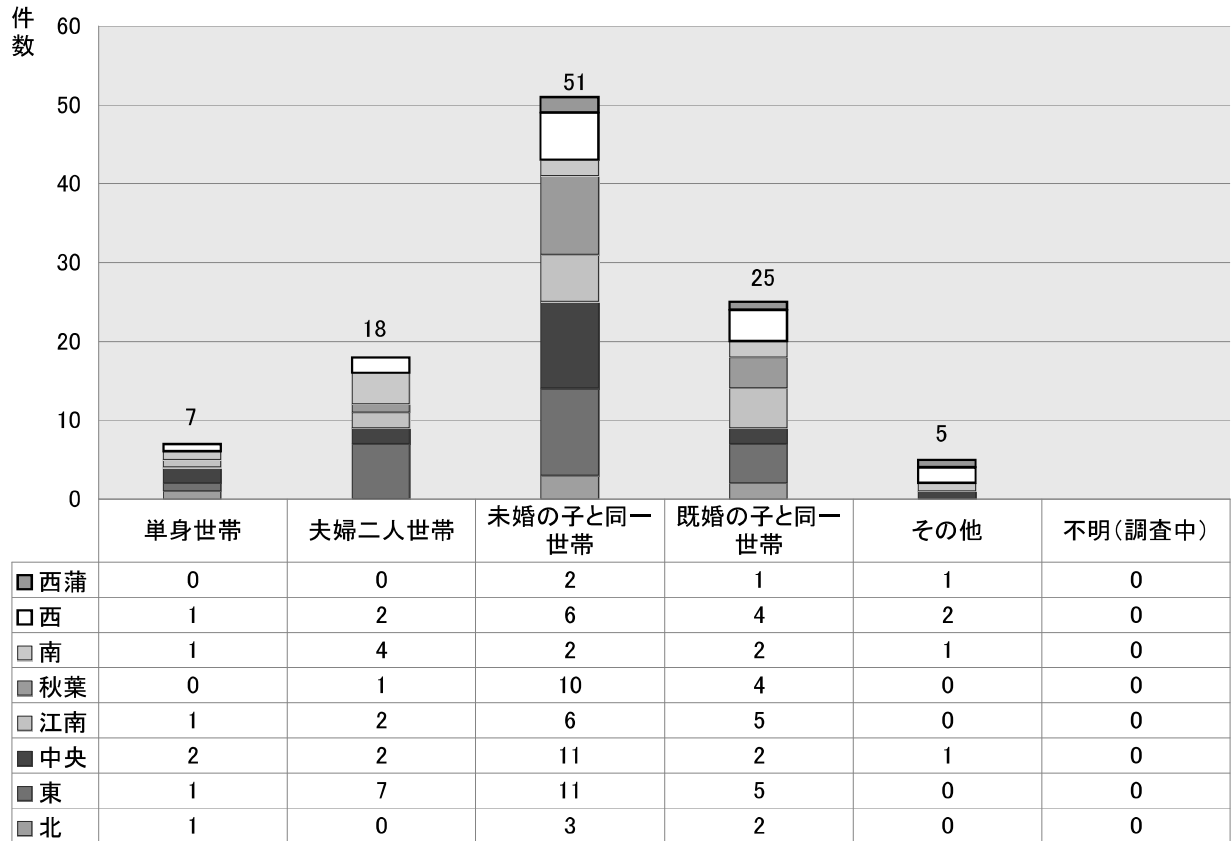
・要介護認定者の9割以上に認知症状がみられる。  
そのうち自立度Ⅱ、Ⅲで約7割を占めている。

⑪虐待者との居住形態 n=106



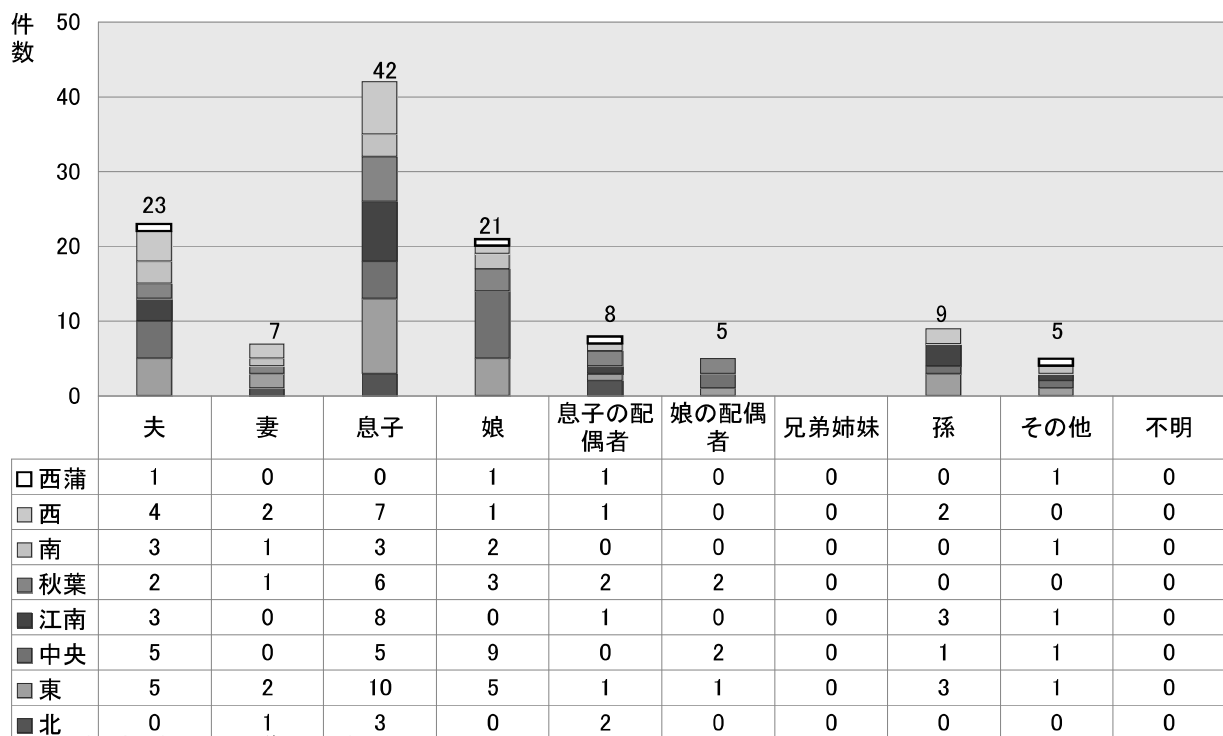
※虐待者と同居が86.7%と、8割以上が虐待者と同居である

⑫世帯構成 n=106



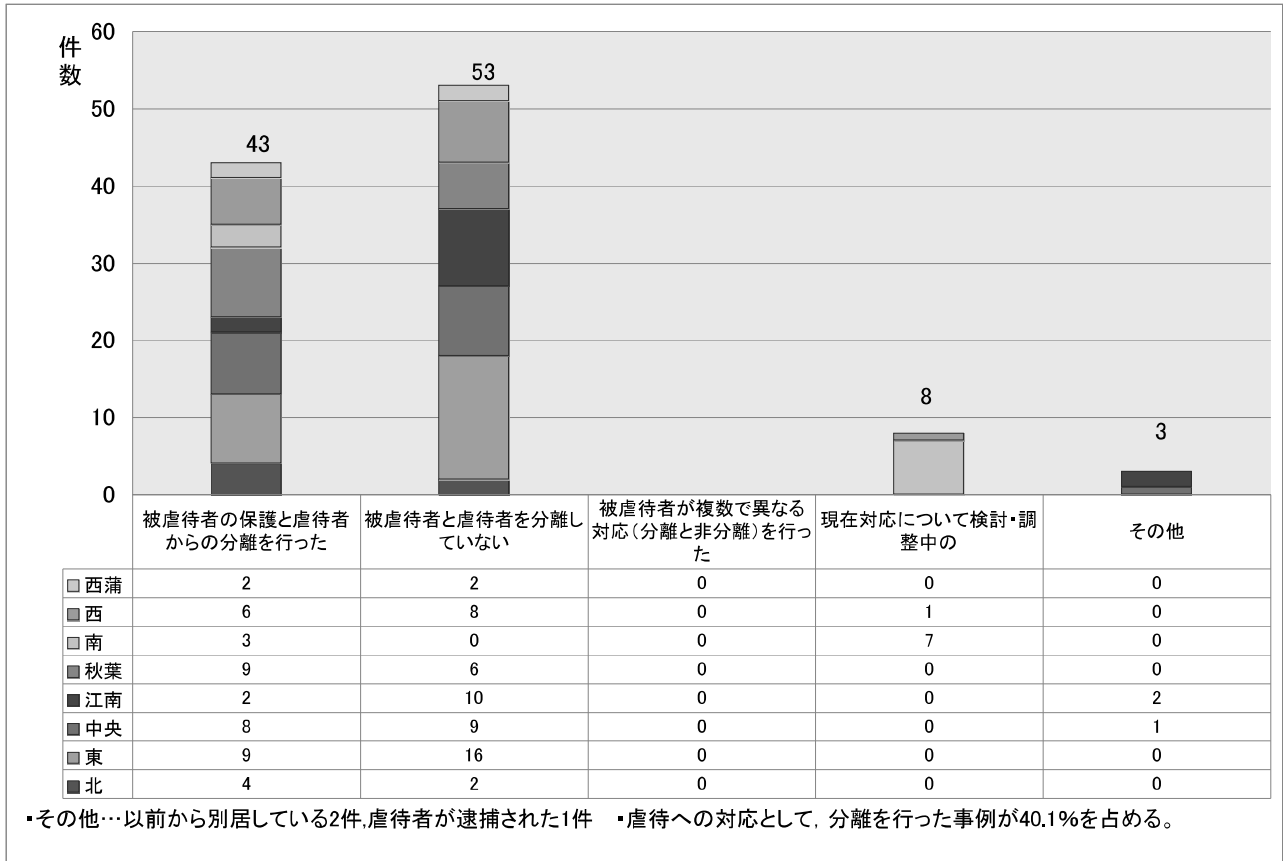
・その他…孫と同一世帯, 従兄弟とその子, 叔母, 甥と同一世帯等  
 ・平成22年度は, 未婚の子と同一が48.1%と約半数を占める。次いで既婚の子と同一が23.5%。

⑬虐待者との続柄(複数回答) n=120

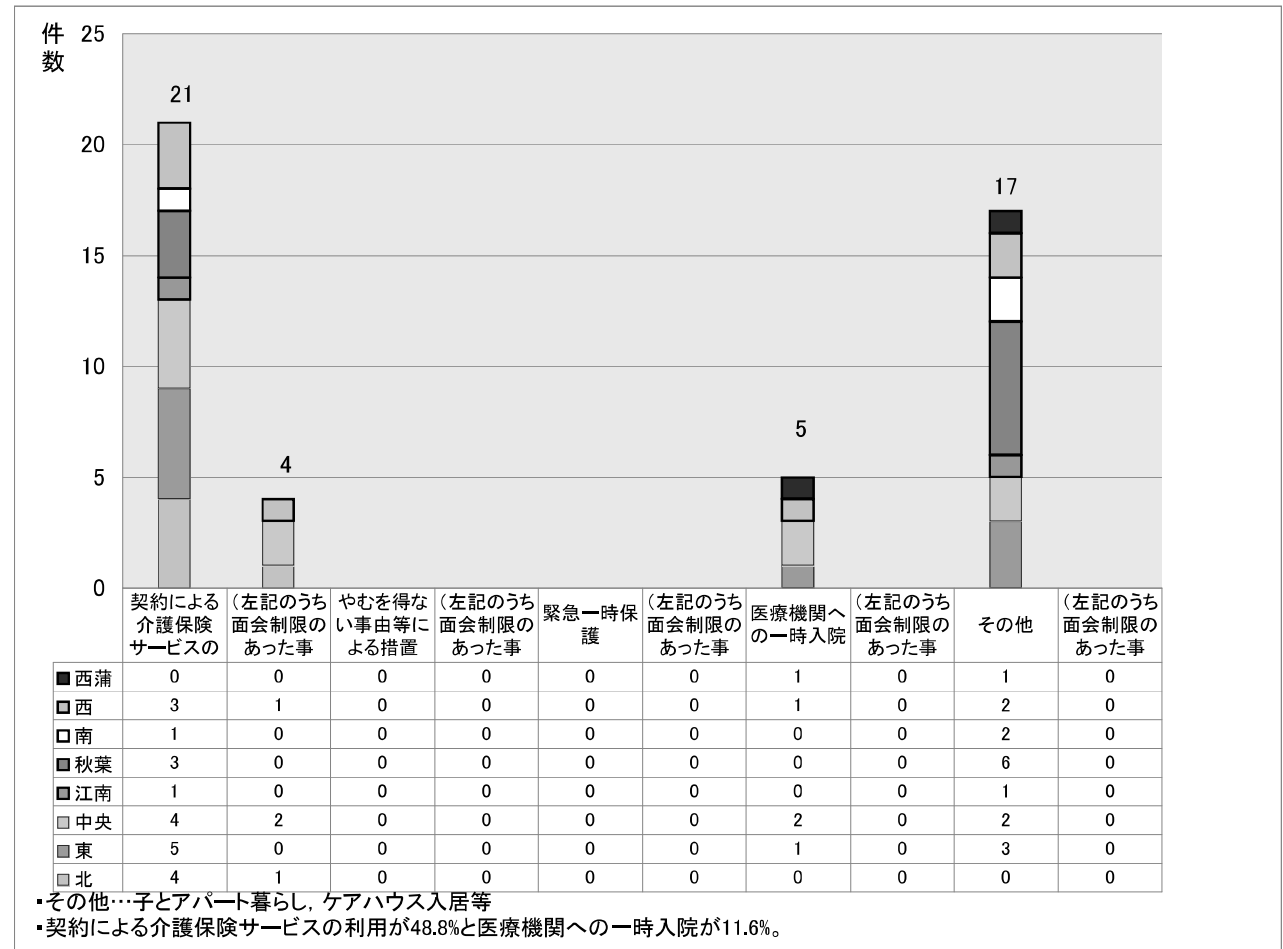


・その他…甥, 叔母, 従兄弟の子, 友人。  
 ・息子が35%と最も多く, 次いで夫が19.1%, 娘17.5%の順であった。

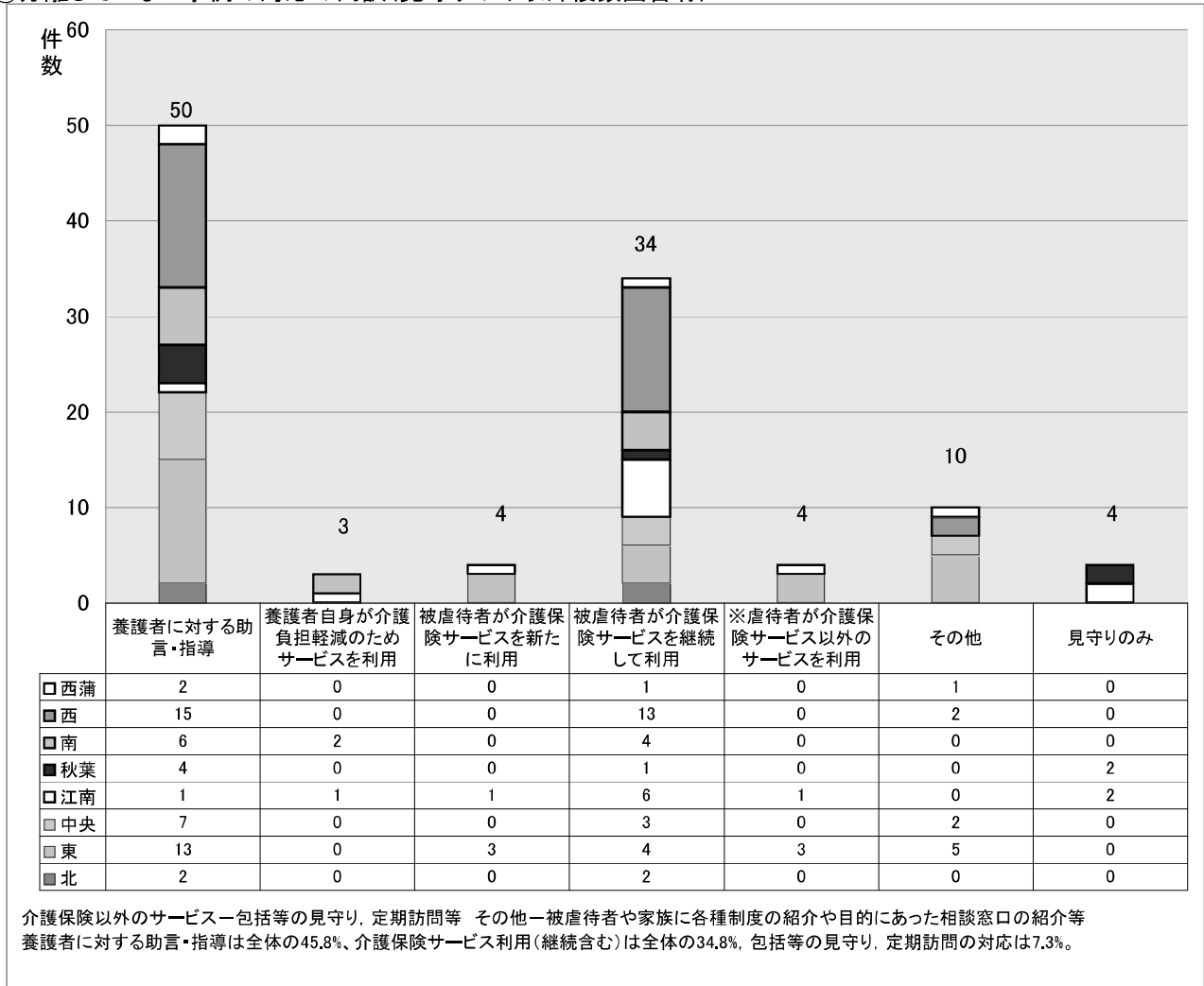
⑭分離の有無 n=107 ※前年度以前の虐待判断事例のうち、22年度に入って対応を行ったものを含むため、合計件数は106件と一致しない。



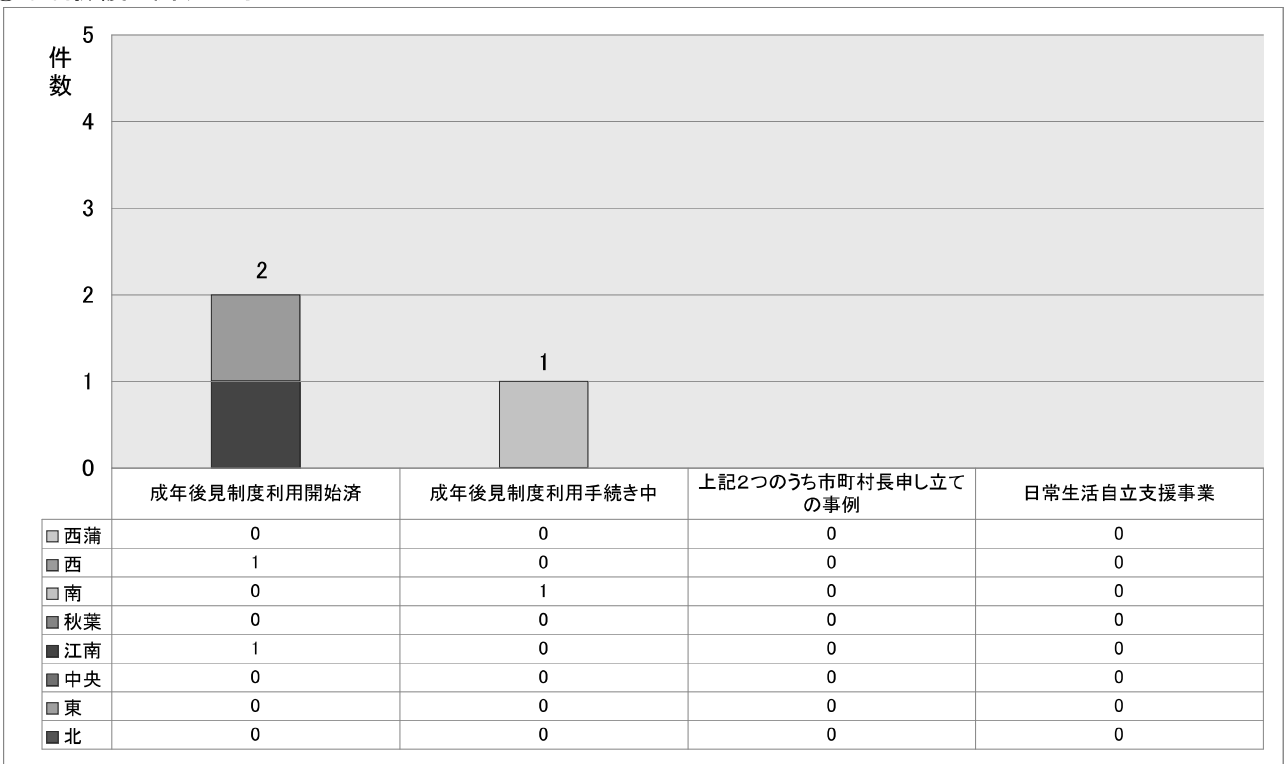
⑮分離を行った事例の対応の内訳(最初にとった対応) n=43



⑩分離していない事例の対応の内訳(見守りのみ以外複数回答有) n=109



⑪権利擁護に関する対応 n=3





⑩22年度末現在 継続件数

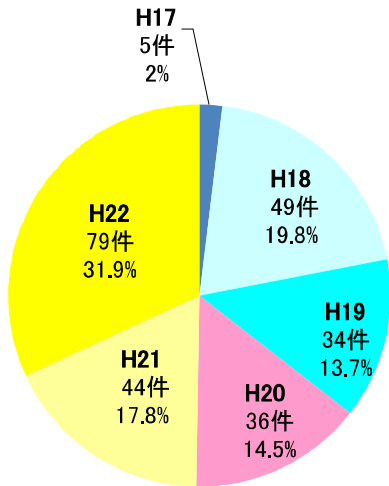
前年度からの継続	228
新規(21年度受付)	106
解消	87
22年度末現在件数(-解消)	247

⑩-1 解消内訳

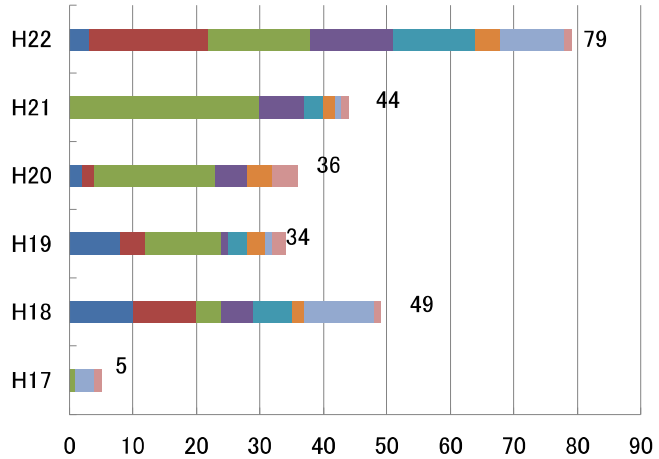
H17年度	0
H18年度	6
H19年度	9
H20年度	12
H21年度	33
H22年度	27
計	87

⑩-2 H22年度現在継続件数  
n=247

受付年度別内訳



件数



	H17	H18	H19	H20	H21	H22
西蒲	1	1	2	4	1	1
西	3	11	1	0	1	10
南	0	2	3	4	2	4
秋葉	0	6	3	0	3	13
江南	0	5	1	5	7	13
中央	1	4	12	19	30	16
東	0	10	4	2	0	19
北	0	10	8	2	0	3